

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷西小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	46.9	48.2	47.1	51.5	49
	本年度結果 偏差値平均	50.4	47.3	51.6	51.6	46.7	49.4
算数	前年度結果 偏差値平均	/	46	50.1	45.8	47.8	48
	本年度結果 偏差値平均	49.8	45.5	53.5	49.5	50.2	49.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	48.9	47.6	49.4
	本年度結果 偏差値平均	/	/	51.3	49.5	45.7	48.6
全体	前年度結果 偏差値平均	/	46.5	49.2	47.3	49	48.6
	本年度結果 偏差値平均	50.1	46.4	52.1	50.2	47.6	49.3

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	70 (106)	69(99)	/
本年度結果 (対県比)	62 (93)	59(92)	59(89)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●昨年度より、国語と算数では偏差値平均を向上させることができたが、理科が達成できなかった。</p> <p>●国語科では、「文章を読み感想などを伝え合う」(2年33.1%、3年32.3%)、「考えや感想を持って伝え合う」(5年36.7%)、「考えや感想をまとめ伝え合う」(6年46.7%)と正答率が低く、伝えることに課題がある。</p> <p>●算数科では、「表やグラフ」(3年33.3%)、「表と棒グラフ」(4年57.2%)、「表と折れ線グラフ」(5年48.4%)、「円グラフや帯グラフ」(6年47.9%)とデータの活用の領域で引き続き課題がある。</p> <p>●理科では、「乾電池と豆電球」(4年36.0%)、「乾電池の働き」(5年52.1%)、「振り子の動きとそのきまり」(6年生50.5%)など物質エネルギーの領域に課題がある。</p> <p>●2年生、3年生において、終盤の設問の無回答率が高く、解答のスピードが間に合っていないと推測される。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語では、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」31.3%、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」43.8%と記述式の問題での正答率が低く、自分の考えや条件に合わせた文章を書くことについて課題がある。</p> <p>●算数では、「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」25%、「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」28.1%と概算、割合に課題がある。プログラムを書き直す問題が、県平均との差が大きかった。</p> <p>●理科では、「日光は直進することを理解している」18.8%、「問題に対するまとめからその根拠を実験の結果を基にして書く」(記述式)21.9%とエネルギーを柱とする領域に課題がある。</p>
---	--

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「なぜ」「どうして」を児童から引き出す「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。</p> <p>○全学級で、国語科で問題文が長文の問題や算数科の文章題、問題数の多い問題を解く練習を実施し、長文を速く正確に読み込む力を伸ばし、テストでの無回答をなくす。</p> <p>○全学級で、授業を通して表現力をつける場、自分の伸びを実感できる場を設定し、自信と意欲につなげる。</p> <p>○全学級で、課題の見られた領域や単元の学習では、アシストシート、家庭学習等で基礎問題・適用題に重点的に取り組む。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案を行う。</p> <p>②校内研修において、カリキュラムと照らし合わせ課題となる領域や単元を確認する。</p> <p>③主体的な学びを促す「問い」を位置付けた課題発見・解決を行う授業研究を通して、授業改善を図る。(全教員が必ず1回は問いを位置付けた指導案を作成し、授業提案する。)</p> <p>④目標の明確化、まとめにつながる板書に重点をおいた管理職による授業参観を実施する。</p> <p>⑤全学級で、授業の中で「話す活動」「書く活動」を確実に位置付ける。</p> <p>⑥全学級で帯タイムで、アシストシートや過去問題、類似問題に取り組み、学習内容の定着を確認し、課題のある内容を重点的に復習する。解いた後の解説を丁寧に行い、学力テスト特有の解き方を身に付けさせる。</p> <p>⑦すすくタイム(低学年裁量)を活用し、基本的な計算、漢字、ことばの学習に取り組み、速く正確に解く練習を行う。</p> <p>⑧全教員で全国学力・学習状況調査の誤答分析を行い、学習の系統を整理して下学年で重点的に指導すべきことを整理し、実行する。また、6学年においては、正答率が低い問題、県平均より差が見られた問題を解説し、学び直しをさせる。</p> <p>⑨学年の課題と前学年が苦手としていた領域や単元を引継ぎ情報共有し、カリキュラムと照らし合わせて、重点的に指導する単元を確認する。</p>	<p>①6月</p> <p>②6月～2月</p> <p>③6月～2月</p> <p>④学期に1回以上</p> <p>⑤9月～2月</p> <p>⑥7月9月～2月</p> <p>⑦9月～2月</p> <p>⑧3・4月</p>	<p>・QU2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点以上)</p> <p>・各学期の単元末テスト平均値(全学級85%以上)</p> <p>・R5年度NRTでの偏差値平均(今年度以上)</p> <p>・類似問題での正答率75%以上</p> <p>・低学力層(NRT1・2)の児童学期末テストの点数(前学期以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級が「学び合い」「ペア・グループ学習」を取り入れた授業を実施し、友達との関わり方を学ぶことができるようになり、学級集団づくりを図る。</p> <p>○全学級で、学級活動や委員会活動、行事等では、児童一人一人に役割のある内容になるよう工夫する。</p> <p>○全学級が、暮会で児童の様子を共有する。</p>	<p>①QUの分析による実態把握を行い、全職員が各学年の集団の特性を理解するとともに特性に合った改善計画を立案する。</p> <p>②QUや学力テスト等をもとに、重点的に指導すべき児童を全職員で共有する。</p> <p>③全職員が授業や委員会活動、縦割り掃除、行事など、さまざまな場で集団や個の特性に合わせた指導を行う。</p> <p>④暮会において、重点児童の経過報告と今後の対応の共有をする。</p> <p>⑤教職員全員が、重点児童とその対応について、情報を引継ぎ、共有する。</p>	<p>①6月</p> <p>②6月</p> <p>③6月～2月</p> <p>④学期に数回</p> <p>⑤4月</p>	<p>・QU2回目の一次支援の数値向上</p>